

Interview 役者・裏方の声



幸(座敷わらし)役  
菊池 優花さん  
=遠野中1=

楽しい嬉しいファンタジー

座敷わらしの表情やしぐさを何回も練習しました。練習から本番まで、疲れることもあったけど、キャストや裏方さん、みんなと一緒に楽しめました。「良かったよー!」と言ってもらえて嬉しかったです。



正吉役  
藤原 卓人さん  
29歳=遠野市役所=  
(友好都市・東京都  
武蔵野市派遣職員)

これからも、ずっと

初の演劇、難しい方言。みんなに支えられやり遂げることができました。今は達成感と寂しさを感じています。いろいろな立場や年齢、歴史一。みんなで作るひとつの舞台。これからもずっと続いてほしいです。



舞台転換・大道具  
佐々木 乙吉さん  
83歳=上郷町=

思いが詰まった遠野の宝

初公演から関わっています。45回の公演、すごい。みんな頑張った。葛藤や苦勞を見てきました。毎回感動し、エネルギーももらっています。市民手作りの舞台は、多くの人の思いが詰まった遠野の宝です。



公演直前、円陣を組むキャスト・スタッフ

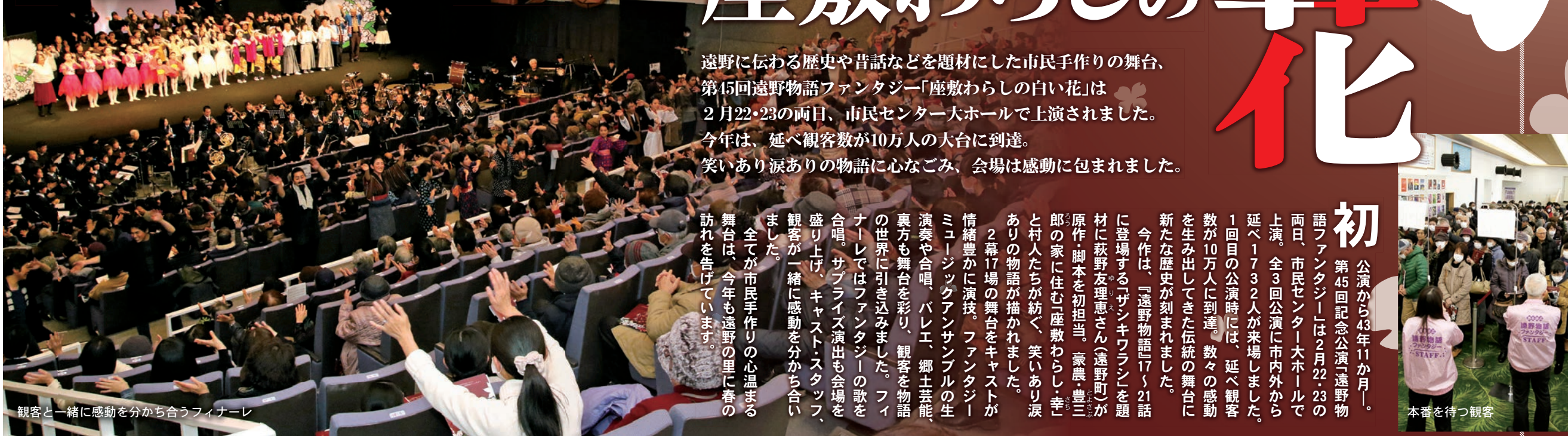
なつ、良守、お孝と家族になった正吉。座敷わらし・幸は白い姿に戻り、白い花で祝福した



【あらすじ】

豪農・豊三郎は、親切で財を分け与える篤志家。その家には、幸福をもたらすと言われる「座敷わらし・幸」が住み、豊三郎と孫娘・なつたちが幸せに暮らしていた。しかし、盗人一味が豊三郎の家で白い蛇を殺してしまうと一転、悲運が一変、家を守る。一家は、なつと奉

公人・良守の二人を残し滅亡してしまう。引き取り手がいない二人に真吉・正吉兄弟の兄・真吉が手を差し伸べた。しかし、真吉は突然命を落としてしまう。悩み、葛藤する正吉。正吉を助けたなつは、盗人一味に連れられ村を出る。なつを追う正吉、良守、座敷わらし。葛藤の先に新しい絆が生まれた。



観客と一緒に感動を分かち合うフィナーレ

第45回記念公演  
市民の舞台「遠野物語ファンタジー」ダイジェスト

# 座敷わらしの白い花

遠野に伝わる歴史や昔話などを題材にした市民手作りの舞台、第45回遠野物語ファンタジー「座敷わらしの白い花」は2月22・23の両日、市民センター大ホールで上演されました。

今年は、延べ観客数が10万人の大台に到達。笑いあり涙ありの物語に心なごみ、会場は感動に包まれました。

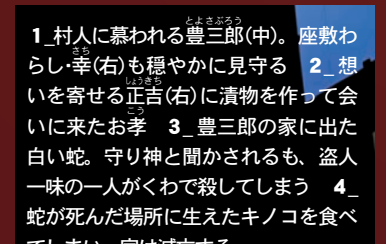
初 公演から43年11か月。第45回記念公演「遠野物語ファンタジー」は2月22・23の両日、市民センター大ホールで上演。全3回公演に市内外から延べ1732人が来場しました。1回目の公演時には、延べ観客数が10万人に到達。数々の感動を生み出してきた伝統の舞台に新たな歴史が刻まれました。今作は、『遠野物語』17、21話に登場する「サシキワラシ」を題材に萩野友理恵さん(遠野町)が原作・脚本を初担当。豪農・豊三郎の家に住む「座敷わらし・幸」と村人たちが紡ぐ、笑いあり涙ありの物語が描かれました。2幕17場の舞台をキャストが情緒豊かに演技。ファンタジーミュージックアンサンブルの生演奏や合唱、バレエ、郷土芸能、裏方も舞台を彩り、観客を物語の世界に引き込みました。フィナーレではファンタジーの歌を合唱。サプライズ演出も会場を盛り上げ、キャスト・スタッフ、観客と一緒に感動を分かち合いました。全てが市民手作りの心温まる舞台は、今年も遠野の里に春の訪れを告げています。



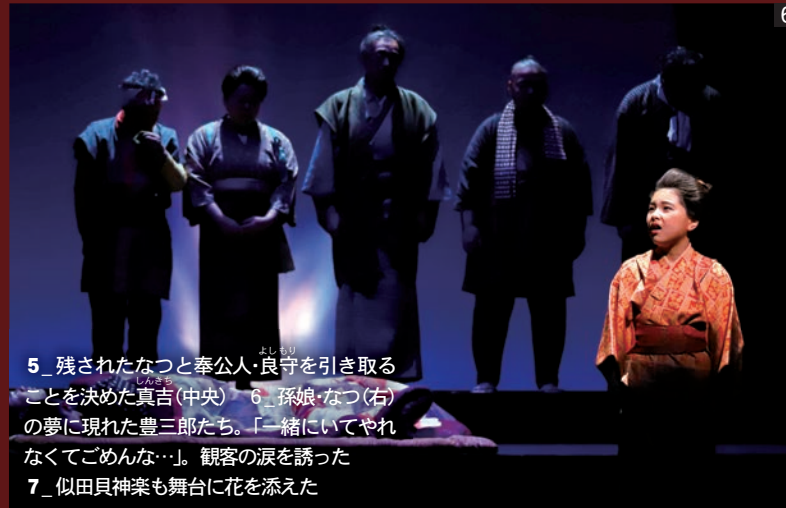
本番を待つ観客



8・9 真吉の死後、盗人一味がなつを連れ去る。なつを連れ戻そうと盗人に立ち向かう正吉と村人たち 10 赤い姿の座敷わらし・幸と花の精霊が盗人を懲らしめた



1 村人に慕われる豊三郎(中)。座敷わらし・幸(右)も穏やかに見守る 2 想いを寄せる正吉(右)に漬物を作って会いに来たお孝 3 豊三郎の家に出た白い蛇。守り神と聞かされるも、盗人一味の一人がくわで殺してしまう 4 蛇が死んだ場所に生えたキノコを食べてしまい一家は滅亡する



5 残されたなつと奉公人・良守を引き取ることを決めた真吉(中央) 6 孫娘・なつ(右)の夢に現れた豊三郎たち。「一緒にいてやれなくてごめん」。観客の涙を誘った 7 似田貝神楽も舞台上に花を添えた



Interview 市民の声



千葉 智恵さん  
71歳=宮守町達曾部=

笑って泣いた、最高の舞台

毎年の楽しみで、市村合併後はずっと見に来ていました。今年は、「心を育てたい」そんな思いを感じるストーリーでした。涙あり、笑いあり、本当に最高の舞台でした。



10万人目の来場者  
高橋 真紀さん  
44歳=綾織町=

楽しい時間をありがとう

10万人目は、とにかくびっくり! 役者や音楽など身近な人たちが作る舞台。皆さんの頑張りに刺激を受け、感動し、歴史を感じながら楽しい時間を過ごしました。

昭和51年3月に始まった「遠野物語ファンタジー」の延べ観客数は2月22日、10万人に到達。市民センターホワイエで記念セレモニーが行われました。

